

(対象事業：地域連携強化事業・地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業・国際交流拠点形成事業)

事業名：みんなで学ぼう！ 名護・やんばる講座2  
事業者名：みんなで学ぼう名護・やんばる講座実行委員会  
住所：沖縄県名護市東江1-8-11（名護博物館内）  
TEL：0980-53-1342  
FAX：0980-53-1362  
HPアドレス：<http://www.city.nago.okinawa.jp/4/3282.html>  
連携事業者名：名護博物館友の会、安部公民館、  
我部公民館、宇茂佐公民館  
会場：安部公民館、我部公民館、  
宇茂佐公民館、名護博物館  
事業期間：平成22年5月1日～平成23年3月15日



## 1. 館の使命と本事業の関係

やんばる（山原）全域を俯瞰し、全体の概要を把握しながら各地の拠点施設との関係をはかった昨年度の事業に対し、より身近な名護市内の字（あざ）に重心をうつし、それぞれの地域と関係しながら集落めぐりや「地域アーカイブ」づくりをすすめ、文化資源の発見と活性化を支援します。それは、字単位の暮らしや価値観が現在も残る名護・やんばるならではの独自性であり、そのサポートが地域博物館に求められている現実的な使命と考えます。

本事業で、名護市内にある55の字それぞれが、地域の自然・文化やモノそのものを再発見し、伝承しながら未来を指向するムーブメントを誘引することを目指したアーカイブ化にとりくみ、その活動を実践的にサポートする機関として名護博物館を位置づけます。

## 2. 企画内容

### ①事業目的

昨年度の事業を発展させ、名護市を中核とする“やんばる”地域（沖縄島北部）再生の実践的なスキームづくりを目的に、名護市内の3地域を主たる事業実施場所として設定し、各地の住民による手づくりの文化資源アーカイブ化のきっかけをつくる。

### ②事業概要

名護市内にある3地区の公民館を中心に、市民参加型の集落めぐりと写真展を行い、地域の風土や歴史・文化を学びあうと同時に、地域で集めた写真をアーカイブしながら地域間・世代間の交流を活発にする。またその成果として、「地域アルバム」の発表展示会をそれぞれの公民館で開催し、活性化を支援する。

### 3. 事業実績

#### (1) 事業の内容及び日程

##### ① 安倍をあるく／地域調査 2010 年 9 月 7 日（火）

事前学習の後、安倍のムラウチや海岸を中心に歩き、地域調査を実施。終了後に写真と記録カードを基に事後学習

##### ■ 地域アルバム展（安倍公民館）／2010 年 9 月 24 日～28 日

各家庭の写真を複写して公民館で写真展開催



##### ② 我部をあるく／地域調査 2010 年 10 月 25 日（月）

字の中心となるヒラマチと、塩田があるメーガキと二手に分かれて歩き、我部公民館の地域調査を実施。終了後に写真と記録カードを基に事後学習

##### ■ 地域アルバム展（安倍公民館）／2010 年 11 月 18 日～24 日

各家庭の写真を複写して公民館で写真展開催



##### ③ 宇茂佐をあるく／地域調査 2010 年 12 月 5 日（月）

宇茂佐の字誌編集委員会のメンバーとともに、宇茂佐海岸からウムサバル、プーミチャから屋部川沿いに公民館まで歩いて地域調査を実施。終了後に学習会開催

##### ■ 地域アルバム展（安倍公民館）／2010 年 12 月 15 日～21 日

各家庭の写真を複写して公民館で写真展開催



#### (2) 参加者の数

参加者人数 延べ 950 人

内 訳：（開催地別／ワークショップ）

安部公民館／約 10名 我部公民館／約 10名 宇茂佐公民館／約 30名

（開催地別／写真展）

安部公民館／約 250名 我部公民館／約 200名 宇茂佐公民館／約 450名

（世代別）

幼児 約 50名 小・中学生 約100名

高・大学生 約 50名 一般・高齢者 約750名



### (3) 事業により作成した印刷物等

1. ポスター (3 地域合同) /A4 版 1,500 枚
2. チラシ (3 地域) /B2 版 10,000 枚
3. ガイドブック (3 地域) /A4 版 20 頁 750 部
4. DVD コンテンツ (3 地域) /250 枚
5. ホームページ (<http://bughouse.jp/nagoaruki/index.html>)
6. DVD コンテンツ (3 地域) /250 枚
7. 報告書/A4 版 44 頁 250 部

### (4) 実施事業に関する新聞記事等

#### ○新聞記事

琉球新報：2010 年 9 月 26 日掲載

琉球新報：2010 年 12 月 19 日掲載

沖縄タイムス：2010 年 10 月 6 日掲載

沖縄タイムス：2010 年 11 月 17 日掲載



沖縄タイムス：2010 年 12 月 19 日掲載

沖縄タイムス：2011 年 4 月 5 日掲載



#### ○テレビ、関連誌等

名護市広報誌：市民のひろば 11月号

安部地区でのアルバム展 (安部公民館)

**博物館だより**

名護市市制40周年記念事業  
館フォーラム2010 関連事業

**名護博物館企画展**  
グジラとヒトウとサン  
名護近海の海生哺乳類

◆期間 平成22年11月3日(水)～11月16日(火) 月曜休館

◆場所 名護博物館

◆内容 名護と関わりのあるグジラ・サトウクジラ・ヒトウ(主にゴンドウ)や国指定天然記念物のサンジュゴン、三種をテーマとして、海の哺乳類と人との共生について考える機会をします。

**我部のアルバム展**  
「みんなて学ぼう名護・やんばる講座2」

◆期間 平成22年11月18日(木)～11月24日(水)

◆場所 我部公民館

◆主催 「みんなて学ぼう」名護・やんばる講座実行委員会

◆内容 この事業は、平成22年度美術館・博物館活動支援事業で採択されたものです。名護市では、安部地区、我部、宇茂佐地区を歩き歴史、文化を学びあうと同時に、地域に残る写真を発見し、みんなのアルバムとして公開し、資料として保存するものです。

名護博物館
53-1342

#### 4. 事業の成果及び今後の課題

字・集落単位の社会にコミットし、地域情報の収集と蓄積、公開について体験的に学習することをテーマにした今回の事業は、名護市の東海岸に位置する安部地区、屋我地島の西側に位置する我部地区、そしてベッドタウン化がすすむ宇茂佐地区で、座学と現地調査、地域アルバム展開催などを行いながら、ホームページやガイドブック作成、データベース構築などを盛り込むという中身の濃いものとなった。

事業は、地域のスーヅグワー（筋道）に分け入って、字・集落単位の人々のくらしに密着しながら、隠れた文化資源を発掘・評価し、蓄積・公開することで、地域を元気づけると同時に、一連の活動を継続できるシステムを地域とともに構築することを目標に展開された。中でも印象深かったものは、3地区の公民館でそれぞれ行った「地域アルバム展」で、各家庭のアルバムを公民館に集め、地域のアルバムとして思い出や情報を共有するなかで、さまざまな話が掘り起こされ、家族や友人との絆が深まるシーンにたびたび立ち会うことができた。写真は、同時代を生きた地域の人々が、時空をさかのぼってたちどころに共感・共鳴できる一番の財産といえる。

また、公民館の重要性を再認識できたことも大きな収穫であった。人々の顔が見える拠点として、公民館の果たす役割と存在は大きく、かつてのようにぎわいに陰りが見える公民館が、往時の活力を取り戻す方法の一つとして、「地域アルバム」づくりや写真展は有効ではないかと思われた。

公民館のパソコンで、若年者と高齢者が「地域アルバム」を共同製作する機会を設定できるならば、パソコンの操作を担う若年者と写真の内容を知る高齢者とで、世代を超えた交流が公民館のなかから生まれるのではないだろうか。地域の記憶を次世代に語り継ぐ拠点として公民館を位置づけるのだ。

さらに、各公民館で管理するデータを博物館が共有するならば、複数の字の写真を管理するデータベース・センターとして博物館の機能はさらに充実するであろう。そして範囲を拡大すれば、沖縄全域を単位としたアーカイブ・センターにもなり、「地域アーカイブ」の構築に道を開くのではないだろうか。

事業の課題としては、地域の人々と博物館とのつながりを今後どのように継続するかということや、収集した（収集し続ける）情報を、どのような形で蓄積・研究・公開していくかなどが、あげられる。

そのためにも、今回の事業を、地域の人々と博物館とをつなぐためのパイロット事業と位置づけ、博物館友の会を中心とする市民と博物館とが、今回の事業で得られたノウハウをもとに、残り52の区・字を取り込んでいく努力と工夫が必要であろう。